

◆数学科の概要

当学科は、1959年に理工学部の一学科として創設されて以来、数多くの卒業生を世に送り出してきました。また、その間、皆和気あいあいとして楽しく勉強しながら、研究、教育の両面において活躍してきました。

これまで、いくつかの研究分野においては、海外でも指導的立場にある教授陣や世界的な研究業績など、わが国でもトップレベルの教育・研究の実績を数多く残してきました。一方、教育面においては、全国でも珍しい「純粋数学と情報数学のバイリンガル」にごく自然になれるように配慮した並列型のカリキュラム編成となっているので、代数学、幾何学、解析学などの純粋数学と、C言語に代表されるコンピュータ言語のプログラミングおよびアルゴリズムなどの情報数学の両方を同一学科内で同時に学べます。また、中学校・高等学校の教員を志望する学生のために、中学・高校の「数学」と高校の「情報」の教員免許（普通1種）を卒業時に無理なく同時に、かつ同一学科内の専門科目履修のみで取得できるよう考え抜かれたカリキュラムともなっており、その中には、教員採用試験対策としての特別の講義なども設けられています。さらには、基礎的な科目においてはレベルに応じたクラス分けにより密度の濃い丁寧な教育を行っており、卒業研究では、個人指導に近い形での徹底した自主的指導かつ専門的な教育に努めています。また、学生全員にノート型パソコンを入学時に配付し、講義・演習・レポート提出などに活用できるよう配慮しています。

当学科では世界的にも貴重な書籍を多数所蔵する書庫が備えられています。また、最先端の研究を行うためには欠かすことのできない数学のデータベースや学術雑誌の電子版などについては、世界最大のオンライン電子ジャーナル・パッケージと契約しており、十分に整備されたIT環境を用いて学内からこれらを活用することもできます。さらに、最新の数式処理ソフトウェアが導入されたコンピューターシステムを当学科専用の演習室においても完備し、学ぶことそのものが貴重な財産となる伝統と施設が当学科には整っています。

2019年現在、当学科は400名を超える学部学生と大学院生および20名の教職員により構成されています。また、2018年7月には新校舎「タワー・スコラ」（南棟）が理工学部駿河台キャンパス内に新設されたのを契機に新しい拠点場所ができ、数学科にとって新たな時代の幕開けともなりました。